

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	<small>くまもとあまぐさかんせん</small> 地域高規格道路 熊本天草幹線道路 <small>おおやの</small> 一般国道266号 大矢野バイパス	事業区分	一般国道 熊本県 主体	
起終点	自：熊本県上天草市大矢野町登立 <small>かみあまくさ おおやのまちのぼりたて</small> 至：熊本県宇城市三角町三角浦 <small>うき みすみまちなみすみうら</small>	延長	3.7km	
事業概要 国道266号大矢野バイパスは、地域高規格道路である熊本天草幹線道路の一部を担う延長3.7kmの道路であり、熊本都市圏と天草地域の交流・連携強化、交通混雑の緩和、防災性の向上等を目的としたバイパス事業である。				
H18年度事業化	都市計画決定 無し	H19年度用地着手	H19年度工事着手	
全体事業費	約181億円	事業進捗率	15% 供用済延長 1km	
計画交通量	13,300台/日			
費用対効果分析結果	B/C <small>(事業全体)</small> 1.1 <small>(残事業)</small> 1.5	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 119/159 億円 事業費：116/156億円 維持管理費：3.0/3.0億円	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 179/179 億円 走行時間短縮便益：129/129 億円 走行経費減少便益：34/34 億円 交通事故減少便益：16/16 億円	基準年 平成23年
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.8（交通量 +10%） B/C=1.3（交通量 -10%） 事業費変動：B/C=1.4（事業費 +10%） B/C=1.7（事業費 -10%） 事業期間変動：B/C=1.3（事業期間+20%） B/C=1.7（事業期間-20%）				
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ②物流効率化の支援 ③国土・地域ネットワークの構築 ④個性ある地域の形成 ⑤安全で安心できるくらしの確保 ⑥災害への備え ⑦地球環境の保全 ⑧生活環境の改善・保全				
関係する地方公共団体等の意見 沿線市町による熊本・天草間幹線道路整備促進期成会等からは毎年要望書が提出されており、依然として整備に対する要望は高い状況にある。				
事業評価監視委員会の意見 本事業は、交通渋滞を解消し、信頼性の高い広域交通ネットワークの形成を図るため、また、天草地域の産業・観光振興においても必要不可欠な事業である。情報ネットワークも含めて、複線化は防災上も重要であり、今回の再評価における対応方針「継続」は妥当である。 ただし、本事業区間と現国道との接続部が新たな渋滞要因とならないように交通の円滑化に細心の工夫を図り、橋梁工事を含む施工全般の安全に努めること。また、熊本と天草の間の迅速な交通移動を可能にするよう、熊本天草幹線道路全体の早期完了を図ること。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 当該事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成22年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約15%であり、そのうち用地進捗率は約47%である。平成23年度末には、「登立2号橋（仮称）」が完成予定である。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 新天門橋の詳細検討や用地買収に係る相続者調査等に期間を要したが、諸問題解決後は順調に事業が進んでいる。				
施設の構造や工法の変更等 新天門橋について「新天門橋技術検討委員会」にて橋種等の比較検討を行いコスト削減を図っている。				

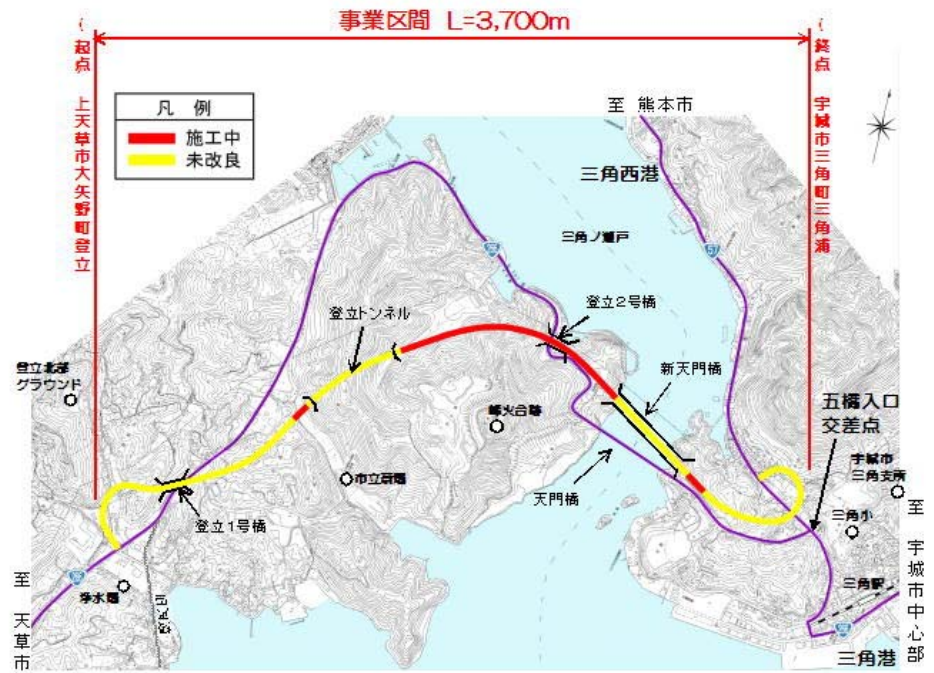
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。